

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 4 月 15 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	川口ゆり

<p>1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)</p> <p>アメリカ、フロリダ</p>
<p>2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)</p> <p>C03 (International Conference on Comparative Cognition) への参加、Save The Chimp、Miami Zoo</p>
<p>3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)</p> <p>平成 30 年 4 月 3 日ー4 月 12 日</p>
<p>4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)</p> <p>Dr. Durham (Save The Chimp)</p>
<p>5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)</p> <p>写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>4 月 3 日ー4 月 12 日にかけて、フロリダへ出張し学会参加とチンパンジーサンクチュアリの見学、動物園見学をおこなったためここに報告する。</p> <p>International Conference on Comparative Cognition は比較認知科学において最もメジャーな国際学会の一つである。私は本学会でポスター発表をおこなった。この学会は初めてだったが、今まで参加したどの国際学会とも異なり、パラレルでの複数セッションがなくひとつの部屋だけでおさまる程度の、規模としては大きくない学会だった。小さい学会にもかかわらず今までと違い、知り合いもほとんどいなかったのが緊張した。ただ、結果的には今までの国際学会でのコミットメントの仕方は「広く浅い」ものだったのに対し、今回は「狭くても比較的深い」ものになったのではないかと思う。例えばバンケットでは近くに知り合いがなく助け舟がないなか、3 時間同じ席に座って会話をせざるを得なかった。最初こそ辛かったが、隣に座ったのが自分の卒業研究の際に参考にした研究をした研究者だとわかり、話が弾んだ。翌日、その研究者はポスターを聴きにきてくれた。また、これまでは正直なところ、国際学会のポスター発表では聞いてほしい人に来てもらえない、という感があったが、今回は野生のチンパンジー母子の研究をしている研究者に興味を持ってもらえたのでいろいろ話すことができ、また、この発表を聴こうと決めていた、とってきてくれる方もおり嬉しかった。自分の研究に興味を持ってくれる人がいるのだから早く論文にしよう、というモチベーションになった。トークのいくつかはとても興味深かったが、割り当てられた時間はひとつ 5ー10 分しかなく、かけあしで進んでいったので十分に理解できないことも多かったのは少し残念だった。</p>
<div style="text-align: center;">  <p>学会会場</p> </div>
<p>Save The Chimp は素晴らしい施設だった。20 もの島に 245 個体のチンパンジーを飼育しているというスケールの大きさはもちろん、ひどい扱いを受けてきたチンパンジーにたちが最大限幸せに暮らせるようにする、という静かながら熱く真摯な使命感が伝わってきた。例えば、チンパンジーたちがどれほど劣悪な環境にいたかを教訓として残すために、彼らが以前飼育されていた小さなケージが残されていた。また、島のタワーなどの構造物は事前にアクティビティバジェットや使用場所を観察から確かめた</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

うえで適切なものを建てたとのことだった。エンリッチメントも様々なおもちゃだけでなくハーブを与えるなど、様々な工夫が見られた。来年京都で開かれる国際エンリッチメント会議の運営に少し携わっているの、このような施設を見学できたのはとても有意義だった。帰り際、アメリカにはラボで使われなくなり、引き取り手を待っているチンパンジーがあと 500 個体もいると聞き、ショックを受けた。



チンパンジーに与えるローズマリーなどのハーブ。
Olfactory enrichment と呼んでいた

マイアミ動物園は一つ一つの展示場所が広く閉塞感がなかった。しかし、すでに欧米のいくつかの優れた動物園を見ていたため、非常に斬新なものはあまりなかった。ただ、特筆すべきなのは、来園客の層が他の動物園とは違ったことである。今まで私が訪れた欧米の動物園は家族連れがほとんどで幼い子どもばかりだった。展示も幼い子ども向けの物しかなく、ポップなものだった。しかし、マイアミ動物園では解説の多くは小学校中学年以上を対象にした詳しいものだったし、実際、理科の授業で観察に来ている 10 代の児童らがいた。今まで私は海外の優れた動物園を見て、しかし動物園には幼い子どもしか来ないという前提で本当にいいのだろうかという疑問を持っていたので、そのようなあり方は好感が持てた。



マイアミ動物園

6. その他 (特記事項など)

Save The Chimpanzee では Durham 氏が親切に対応してくださいました。また今回の出張は PWS プログラムの支援を受けておこなわれました。さらに、現地では Nelson 氏の助けを得ました。記して感謝申し上げます。